



P2
国際コーディネーター ジム・メルニック

P2-P3
LCJE 総裁 ダン・セレード博士

P4
北米地域コーディネーター ジム・シブリー博士

P5
LCJE特別集会 デイビッド・トゥルーベック

P6
最新レポート 石井田直二

P7
メシアの家 網元バフロ

P8
お知らせ 事務局より

巻頭言

イスラエルと新型コロナウイルス 予防ワクチン

アルコ・イリスミニストリーズ 代表 早川 衛

現在、イスラエルは、新型コロナウイルス予防ワクチンの接種率に関し、世界一位あるいは二位の国となっている。同ワクチンが、良いものなら何の問題もない。しかし、何らかの問題があるとすれば、イスラエル全体がダメージを受けることになる。

ワクチンの目的は、疾病の種類に拘わらず、病原体を攻撃する抗体を作り出すこと、あるいは、病原体の特徴を前もって人体の免疫システムに覚えさせることである。しかし、目的は同じでも、ワクチンの製造方法は、ひとつではない。例えば、インフルエンザ予防ワクチンを作るためには、死んだウイルスを使用する。いわゆる不活化ワクチンである。一方、現在、イスラエルで使用されている新型コロナウイルス予防ワクチンは、米国ファイザー社が、遺伝子組み換え技術を用いて製造した新型バイオワクチンである。日本政府が導入する新型コロナウイルス予防ワクチンの多くも同社の製品である。

それでは、新型コロナウイルス予防ワクチンの危険性は、何であろうか。マスクミが指摘する副反応は、接種部の痛み、倦怠感、頭痛、筋肉痛、寒気、発熱、接種部のはれ、関節痛、吐き気などであり、接種後、比較的短時間のうちに生じるものである。しかし、全く異なる副反応も指摘されている。例えば、特定非営利活動法人日本消費者連盟は、昨年9月8日付けで、新型コロナウイルス・ワクチンについての公開質問状を我が国厚生労働大臣宛てに送付した。同質問状には、7つの質問が記されているが、そのうちの4つを以下のとおり紹介させていただく。(https://nishoren.net/new-infomation/open_letter/13506)

・今回、ファイザー、アストラゼネカといった多国籍製薬企業との合意では、従来の生ワクチン、不活化ワクチン、VLPワクチンではなく、新たな mRNA ワクチンやウイルスベクター・ワクチンです。これらのワクチンは、人間への接種の経験がなく、人体実験に近いものです。ナチス・ドイツの経験を踏まえ先端医療における人体実験を禁止した、世界医師会によるヘルシンキ宣言(1964年)に違反する行為だと言えないでしょうか。どのようにお考えでしょうか。(ちなみに、中国製コロナウイルス予防ワクチンは、不活化ワクチンである。)

・新型バイオワクチンには、購入することで基本合意した



mRNA ワクチン、ウイルスベクター・ワクチンに加えて、DNA ワクチンがあります。この3種類のワクチンの基本となる考え方は、従来の生ワクチン、不活化ワクチン、VLP ワクチンが、いずれもワクチンそのものを作って人間に接種するのに対して、体内に導入された時にワクチンの機能を持ったたんぱく質を作るようにしたものです。ワクチンの働きをする物質を人間が体内で作り出すことになるとすると、これは遺伝子治療の考え方であり、人間の遺伝子組み換えと言えます。遺伝子治療には、遺伝子治療臨床試験のガイドラインに規定されるはずですが、その点についての見解をお示しください。

・今回契約で合意したウイルスベクター・ワクチンとともに、大阪大学発のベンチャー企業のアンジェス社などが開発している DNA ワクチンについてですが、これらのワクチンは、遺伝物質が細胞の核の中に入り働くことが想定されます。これがもし生殖細胞に入れば、人間の遺伝的改造につながります。これは倫理的に許されないことです。その点についてどのようにお考えでしょうか。

・新型バイオワクチンは、人間の遺伝子組み換えである以上、遺伝子を組み換えたすべての生物を対象としたカルタヘナ議定書の対象になるはずですが、その点についてどのようにお考えでしょうか。また環境省と話し合っているのでしょうか。

上記の質問は、イスラエルや日本等に導入されている新型コロナウイルス予防ワクチンが、人間の遺伝子を変化させてしまう危険性を指摘するものである。遺伝子とは、人間の設計図である。つまり、遺伝子が変化することは、人間の設計図が変えられることである。人間およびすべての生物の遺伝子は、4つの塩基文字(ATCG)によって構成されている。それは、ATCGをきいて同一のデザイナーが存在し、同デザイナーが、すべての生物の設計図を作られたことを意味する。イスラエルの神、主こそが、そのデザイナーである。

繰り返しになるが、イスラエルは、新型コロナウイルス予防ワクチンの接種率に関し、世界一位あるいは二位の国である。イスラエル国民全体に同ワクチンが接種される日は近い。新型コロナウイルス予防ワクチンが良いものなら、何の問題もない。しかし、遺伝子を変え、神のデザインに手を加えるものであるなら、イスラエル国民全体に危害が及ぶのである。それは、出エジプト記に記されたエジプト王によるヘブル人男子の殺害計画やヒトラーによるユダヤ人殲滅計画に通ずるものではないだろうか。今回のワクチン接種計画の背後には、大きな魔の手が動いているのかも知れない。我々の祈りは、そこにも向けられるべきである。

国際コーディネーターから

LCJE 国際コーディネーター ジム・メルニック

翻訳 駒井 洋子

LCJE40周年！ 私たちは40歳になりました！
このLCJE機関紙特別版を、会員の皆様にお送りすることは大きな喜びです。LCJEが40年の間ずっと荒野を歩んできたとは言いませんが、40周年を記念することは、聖書を信じるクリスチャンにとって特別意義深いものです。

一方、私たちはユダヤ人伝道のための新しい約束の地に、まさに入ろうとするその時期にいるとも言えるでしょう。ユダヤ人コミュニティの中でも、接触するのが一番困難な、ユダヤ人超正統派ハレディームに近づくため、COVID-19のすさまじい世界的パンデミックの渦中であってさえ、驚くべき新しい活動が展開しているのを、私たちは確かに経験しています。

戦い、心がくじけ、そして先の見えないロックダウン（封鎖）のさなかにあっても、信仰を持つようになる人々、イスラエルのメシアである方を知ろうと求める人々が起こされています。このことのゆえに、私たちは神を賛美します。

コロナ禍で世界が激変するなかで、深く考える時を与えられています。宣教・伝道の活動が、どこを歩んできたのか、また、どこに向かっていこうとしているのか。今回の機関誌は、前者の考察、LCJEが継承してきた豊かな遺産に敬意を払い、称賛することに焦点を置いています。

しかしながら、その歴史において極めて重要な役割を果たしたすべての方々に敬意を払うことは不可能ではありません。(とても無理です!) 私たちは十分な遺産を持っていますから、ユダヤ人宣教に携わる次の世代が活動を前進させていくうえで、この継承してきた遺産がどのように展開していくのかを見届けたいと願っています。

この機関誌に多くの方が、どのようにLCJEが始まり、彼らにとってLCJEはどんな意味があるのかという回想を掲載しています。私も彼らと同じように思いを分かち合いたく思っていました。そのことは、もう少しのちに詳しく書き記したいと思います。

私のLCJEに関する最初の思い出については、以前にお伝えしたと思いますが、今一度取り上げます。それは、ジェット機で大西洋を飛び越え、長距離バスに乗り、やっと1991年ザイスト協議会センターのドアにたどり着いた時、そしてそこにはモイシエ・ローゼンがドアを開け、LCJEに温かく迎え入れてくれたことであります。私はその時、同じ思いを抱く兄弟姉妹のホーム＝家庭にいることを、それは、いつの日か行くことになってい



るホーム＝天の御国の前味ですが、実感したあの特別な瞬間を決して忘れてはいません。

LOP-60 Update (Lausanne Occasional Paper 60)

LOP-60のアップデートのため多くのメンバーが懸命に作業をしています。間もなく、このことに関して報告がなされるでしょう。

2021年を展望して；

e ニュースレター、Zoom 祈禱会など

2021年に関して、この時点ではすべてがはっきりしないように思えます。協議会に関しては、私たちの新しいウェブサイト lcje.network > Conferences > Current Conferences にアクセスし、変更・キャンセルについて最新のアップデートをごらんください。

また2021年の間は、LCJE e ニュースレターを通して情報をお送りいたします。これら3課題は私たちのグローバルLCJEズーム祈禱会についての付加通知とともに2020年にお送りしていますが、もし、あなたがe ニュースレターや通知を受け取っていないならば、それは、恐らく私たちの方にあなたの現在のメールアドレスが登録されていないのだと思います。もしあなたがリストに名前を登録したいと思われるのでしたら私のアドレス lcje.int@gmail.com にご連絡をください。

私たちが光の祭りを祝い、この墮ちた世界にインマヌエルが来られることを祝うとき、主が皆さま一人一人を豊かに祝してくださいますように！

イスラエルの来るべき救いに確かな希望をもって！

イザヤ45：17

LCJE40 周年

LCJE 総裁 ダン・セレド博士

翻訳 駒井 洋子

愛する LCJE 家族の皆さま



マザール・トブ！
そして、おめでとうございませう！ LCJE は 40 歳になりました。

今は、私たちのネットワークのため、そして神が世界中の私たちの同胞ユダヤ人のためなしてくださった、そして今もなしてくだ

さっているすべてのことに対して、神をほめたたえ感謝する時です。私は皆さま一人一人のゆえに神をほめたたえます。私たちこそ LCJE ネットワークそのものです。一人一人が神の王国を建て上げるために、その役割を担っています。

私は、この機会を用いて、私たちのネットワークのために仕えてくださった、また現在仕えてくださっている個人、そして組織の会員の方々に感謝いたします。皆さまがいなければ、LCJE は今ここにその存在はないことでしょう。

歴代リーダーの皆さま

私は、会の基礎を築き、私たちネットワークにビジョンを与えてくださった、歴代の LCJE 総裁に感謝の意を表したく思います。ムルド・マクレオド師、オレ・クリスチャン・M・カバーメ師、そしてツェヴィア・ザレツキー博士です。LCJE 総裁とともに、私たちのネットワークは、インタナショナルコーディネーターのジム・メルニックによって支えられています。(ジム、ありがとう!) ジムの前には、ディヴィッド・ハーレイ師、オレ・クリスチャン・M・カバーメ師、カイ・カジャー・ハンセン博士が支えてくださいました。これらの皆さまにも同様に大きな感謝を表します。この他にも多くの方々がおられます。私たちのインターナショナル・コーディネーション・コミティー (ICC) の一般会員の方々も含まれます。これらの男性、女性の会員は私たちのネットワークのため、ユダヤ人伝道活動のために、多大な働きをしてくださいました。「一つになって御名をあげよう」(詩篇 34:3)

次の 40 年に向けて私たちは何を指すべきでしょうか？ 2060 年の LCJE はどのようなものなのでしょうか？

私は未来のことは分かりませんが、皆さまと未来を見て共に成し遂げたいと思っていることがあります。

第一に、私たちは常に福音に焦点を当てていかなければなりません。LCJE は福音中心主義です。私たちは、メシア・イェシュアの驚くべき恵み、死、埋葬、そして復活を信じる者です。私たちは、ローザンヌ・ユダヤ人伝道協議会 (LCJE) に属するものです。私たちの召命、核心、そして私たちの熱心は常にユダヤ人伝道にあるべきです。私たちは、ユダヤ人が救われ、彼らが主にお仕えして生きる姿を見たいと思っています。それが私たちのネットワークの最前線に置かれるべきです。過去 40 年そのように歩み、次の 40 年も同様に、そしてそのあとも。私たちはこの目的に向かって、献身的に関わっていくことができるでしょうか？

次世代

私たちは未来を念頭に建てあげなければなりません。「もし弟子の次世代を育てあげることを行なわなければ、私たちは滅びます」ということわざは真実です。私たちは、弟子たちを作る弟子たちを、その弟子たちを作る弟子たちを、そのまた弟子たちを作る弟子たちを作る必要があります。しかし、それはあなたや私から始まるのです。私たちは、主の大宣教命令を成し遂げなければなりません。

LCJE は、ユダヤ人伝道の分野で働き仕える青年次世代のために、席を譲らなければなりません。彼らは私たちが必要であり、私たちも彼らが必要なのです。LCJE は、18 歳から 120 歳まで、すべての年齢のメンバーが必要なのです。ユダヤ人伝道の分野において、誰が未来のリーダーになるのでしょうか？ 4 年ごとに、LCJE のエージェンシーや、組織メンバーのリーダーたちのため CEO 会議が開かれます。未来を展望するなら、LCJE 未来リーダー会議を主催すべきではありませんか？

イエスは私たちが一致するよう祈っておられます。多くの軋轢のある世界で、私たちが互いに愛し合う愛を、他の人々が見るようにと望んでおられます。私たちの多くは、もっとイエスの愛と恵みが必要だということを確認されるでしょう。私の祈りは、私たちのネットワークが、この真っ暗な世界の中で、光として知れ渡ることです。私たちは、様々な文化を背負っています。私たちの背景は異なり、物事を異なった見方で捉えます。しかし、私たちを一致させるものは、すべての違いを一つにまとめたものより大きいのです。

私たちはキリストにあって一つ、キリストにあって一致しているのです。私たちの一致は、私たちのパートナー

シップをより強め、より結束させ、交わりをより深くさせます。一言で言うと、もっと一緒にいることが必要なのです。それは、バラバラでいるより一緒にあったほうが、沢山のことができるということです。このことについて私たちは、献身的に祈ることができるでしょうか？

40年後のLCJEはどんな様子でしょう？ 私たちのネットワークがより力強く大きくなりますように。より多くの組織、また個人のメンバーが増えますように。私

たちのメシアへの愛がより輝き、それによって多くの人がメシアを見て、知りますように。私たちの未来は揺るぎのないもの、そしてイエシュアのみ、未来の希望があるのです。

マラナ・タ！ 来てください、主イエスよ、来てください！
メシアにあってあなたの兄弟

What LCJE means to me Jim Sibly

私にとって LCJE が意味すること

LCJE 北米地域コーディネーター

ジム・シブリー博士

翻訳 駒井 洋子

LCJE についての知識

私が神学教育を受けた宣教師としてイスラエルに行ったのは、牧会を始めて8年後でした。そして、神からユダヤ人伝道のための強い召命を示されたとき、ユダヤ人伝道についてほとんど何も知らない現実に大きな衝撃を受けました。1984年に語学学習を終了して間もなく、新しくLCJEイスラエル支部が組織されたことを知りました。これは、このミニストリーに長く関わってきた人から学ぶ良い機会であるとすぐに理解しました。私は、そこで良き指導者と友人を見出しました。キャッシーと私は、1986年の英国での国際会議には参加できませんでしたが、CEO会議や国際会議と同様に、続いて開催される地域の会合を優先事項としてきました。



なんという宝でしょう

私は確信しているのですが、すべての宣教師は神学者である必要があり、すべての神学者は宣教師である必要があります。アート・グラッサー博士やジェラルド・アンダーソン博士のように素晴らしく訓練された知力と、宣教に対する心とを兼ね備えているような方々のことでもあります。しばしば福音伝道には、学問分野と実践的方法論との間に間違った二分法が存在するということがあります。ユダヤ人の観点からの、より聖書についての学問は福音伝道に関連はないのでしょうか？メシア的預言はどうでしょうか？両方とも、よりアカデミックであり、実際的である必要があります。その二つは、友であって敵対するものではないのです。長年の間、貴重な情報が発表を通して提供されました。私は、書籍、フィルム、そして他の情報源について学び、そしてそれは、LCJEで培われたつながりからでなければ決して

得られなかったものです。なんとLCJEは貴重な宝なのでしょう、いまの私にとっても！

長年の間、LCJEにかかわり世界中に親しい友人のネットワークができました。私たちは、会議を通してはもちろん、電話、文字、個人を通して連絡を取りあっています。私が、1996年の南部バプティストのユダヤ人伝道に関する決議案について国内ニュースの熱狂的報道に接したとき、LCJEのメンバーに助けを求めることができました。私がラジオのトークショーでインタビューを受けることになっていたとき、その地域にいた友人たちは、警戒し、番組に電話をかけサポートしてくれました。

最近、私は、ある教会のメンバーからユダヤ人の友人について相談を受けました。その人はホロコーストの生存者で、福音に心が開かれているが他の州に住んでいるとのことでした。そこで、私はネットワークのユダヤ人信仰者のあるメンバーに連絡を取りました。その人の父親もまたホロコーストの生存者ですが、彼にコンタクトを取ってくれないかと頼みました。私たちには、なんと素晴らしい兄弟姉妹がいることでしょうか！なんとLCJEは貴重な宝でしょう、いまの私にとっても！

奉仕の手段

LCJEが素晴らしい祝福の源であるのと同時に、それは奉仕の手段でもあります。私が、会議で論文を発表することができ、新しいメンバーを歓迎し、そして人々を頼みとなる援助と結びつけるなか、ついにその時が来ました。インタナショナル・コーデネーティング・コミティーで働き、エリヤコーディネーターとして、より大きなネットワークに仕える特権と同じく、私には新しい展望が与えられたのです。

主を愛し、主のみことばの真実をつかんで離さない人々、イスラエルの家の失われた羊にメシアについての良い知らせを伝えることに献身をした人々の群れに仕えることは何という喜びでしょうか。なんとLCJEは貴重な宝でしょう、いまの私にとっても！

イスラエル独立記念日 LCJE 特別集会 メッセージ

ディフェレット・イエシュア(テルアビブ) 牧師
 チョーズン・ピープル・ミニストリーズ 宣教スタッフ

デイビッド・トゥルーベック



イスラエル独立記念日(ヨム・ハアツマウート)は、イスラエルで盛大に祝われる祝日です。主要都市でパレードや祝賀行事が行われ、家や街頭にも国旗が掲げられます。そして、多くの家族がハイキングやピクニックを楽しみます。また、松明の点火式や、文化功労者を顕彰する「イスラエル賞」の授与式もあります。

しかし、独立の前に長い離散と迫害の歴史があったことを忘れてはなりません。ユダヤ人は激しい迫害に耐えて奇跡的に生き延びました。他の民族が次々に消え去る中、ユダヤ人だけが生き残っていることは、合理的には説明不可能です。しかし、私たちは、歴史を通じて神がユダヤ人を守られてきたことを理解しています。

神はカナン之地をアブラハムの子孫に与えると約束されたのですが、その時、高齢のアブラハムに子供がいませんでした。それでも、神は奇跡によってイサクをお与えになったのです。

そして、彼の子孫はエジプトに移住しますが、モーセに率いられて再びカナン之地に戻ってきます。モーセは世を去る前に、イスラエルの人々の未来について預言しました。それは申命記 4:27～31 に書かれていますが、そこにはユダヤ人の離散と、それでも神が契約のゆえに彼らを守られることが予告されています。

その後の歴史は、その通りに展開しました。ユダヤ人たちは不信仰のゆえにバビロンに散らされましたが、再びエルサレムに帰ります。そしてメシアが登場するのですが、再びエルサレムは滅ぼされ、ユダヤ人は世界に離散し、エルサレムは異邦人に支配される時代が続きます。しかし、ついにユダヤ人が再び国を復興する時が来ます。英国の委任統治領となっていたイスラエルは、1948年5月14日、国連の分割決議を受け入れ設立を宣言したのです。

その翌日、周囲のアラブ諸国の軍隊がイスラエルに攻め込みましたが、新しく生まれた小国は、奇跡的に勝利しました。戦力に大差があったのに、イスラエルが勝利したのは、神の奇跡と言うほかありません。イスラエル国の初代首相であったベングリオンは、宗教的な人ではありませんでしたが奇跡を信じないユダヤ人は現実主義者ではない」と言いました。これはまさに、神の契約の成就なのです。

神のご計画の2つの段階

終わりの時のイスラエルの民に対する神のご計画には2つの段階があります。**エゼキエル書37章の「枯れ骨の預言」**は、それを見事に描き出しています。神は預言者に乾いた骨を見せ「これらの骨は生きることができるか」と問うのです。そこでエゼキエルは「主なる神よ、あなたのご存じます」と答えます。すると神は骨を結びつけ、体を形成し、腱、肉、皮膚を与えます。しかし「彼らには息がなかった」と預言者は強調します。

19世紀の終わりに、この預言は成就し始め、イスラエルの人々はイスラエルの地に戻り始めました。しかし、彼らにはまだ息、つまり「命」がありません。肉体的、現実的にはイスラエルの人々は集められ回復しています。でも、残念なことに、彼らはまだ救い主イエシュアの真理を知りません。歴史を通して聖書を守り続け、救い主イエシュアの兄弟であり、地の果てまで福音をもたらすために用いられた、その民がまだイエシュアを知らないのです。しかし、それも神のご計画どおりでした。エゼキエル 36: 24～27には、諸国からユダヤ人を約束の地に戻し、次に清い水を注いで偶像から清め、新しい霊を授けると書かれています。それが今、私たちの時代に起きているのです。

ユダヤ人は世界各地からイスラエルの地に戻っています。この土地は不毛の地から肥沃な土地へと変わりました。しかし、イスラエルの人々の大半は、救世主イエシュアについての真理を知りません。

主が再び来られる前に、福音は地球の果てまで届けられる必要があります(マタイ 24:14)。でも、イスラエル人も、日本人も、その大半がイエシュアの真理を知りません。彼らは、福音をまだ知らず、それを選ぶ機会が与えられていないのです。私たちは、周囲の人々のために証人となり、神の国の福音を伝えなければなりません。

イスラエルの民とエルサレムの平和のために祈って下さい。どうぞ、イスラエルでの宣教を祈りと献金で支えて下さい。それによって、私たちは神の計画のために働くことができるのです。



ワクチン接種の光と影

シオンとの架け橋 石井田 直二

コロナ禍が長引く中、日本でもワクチン接種が始まりました。ワクチンに関して賛否両論があるのはイスラエルでも日本でも同じですが、イスラエルではすでに過半数の国民が接種を終えました。イスラエルは国民の1割近くが感染するという最悪の状況を何とか乗り越え、現在は感染者が激減しています。

常識破りのワクチン大作戦

イスラエル政府は、国を「ワクチン実験室」として提供する代わりに、ワクチンの優先提供を受けるという常識破りの方法を採用しました。ネタニヤフ首相はイザヤ書 49章から「イスラエルは諸国民の光だ」と発言、人類全体の「コロナウイルスからの救い」にイスラエルが重要な役割を果たすことを示唆しました。ワクチンは実際に人口の大半に接種をしてみないと効果も問題点もわかりません。つまり、イスラエルが成功するにせよ失敗するにせよ、それは追従する他国にとっては重要な参考データになります。

ワクチン接種が始まったのは昨年末でしたが、ちょうどその時期に感染力の強い英国株が拡大したこともあって2月末までは感染者数は高止まり。3月に入ってやっと感染者数の減少傾向が見え、本記事を執筆している4月中旬には、ワクチンの効果が明白になってきました。

しかし、イスラエルは他国よりも大幅に高いワクチン代金を払ったことが判明し「ワクチン買い占め」との批判を浴びています。さらに、接種を主導したネタニヤフ首相は汚職事件で起訴され、政治的混乱でワクチン代が支払えない結果となり、怒ったファイザー社が出荷を停止する不名誉な事態となっています。

また、ワクチン接種の成功は反ユダヤ主義を勢いづかせています。中世以来、伝染病が流行するたびに繰り返された「ユダヤ陰謀論」が、再び頭をもたげているのです。コロナ禍で他の企業が危機に瀕する中、ユダヤ系とされるIT企業が利益を伸ばしていることも、彼らの主張に説得力を与えました。

ワクチン接種を好まない人々

イスラエルでも、人口の3分の1から4分の1はワクチン接種に消極的です。彼らは、ワクチン接種者に「グリーンパス」を発行して行動の自由を認める政策に強く反発しています。メシアニック・コングリゲーションは、ワクチン未接種者の入場を認めると集会人数が厳しく制限されるため、ワクチン未接種者の入場を認めるべきかどうか、指導者は厳しい判断を迫られています。

ワクチン接種反対者の論拠の一つは安全性です。ワクチンには副反応が付きものですが、特にファイザー社製はmRNAという全く新しいタイプであるため、長期的な安全性は確立されていません。ウイルス感染による死者に比べて、ワクチンによる死者が非常に少ないとしても、有名な「トロッコ問題」と同じように、「多数の人を救うために、少数の人を犠牲にすることは許されるか」という答えのない倫理的問題は残ります。



もう一つの反対論は、ワクチンが黙示録時代の「666」だとの主張です。確かに、ワクチン接種証明が無いと、イベント参加も旅行もできなくなる、という状況は黙示録13章を思わせます。この見解を信じる人は、聖書を文字通りに信じるクリスチャンの中に多いため、状況は複雑です。イスラエルのメシアニック・ジューは「良き市民でありたい」との考えから多少の危険があってもワクチンを接種しようという考えの人が多いのですが、その態度が熱心な支援者であるクリスチャンの反発を招くのです。

一致に向けた祈りの必要性

以上のような背景から、多くのメシアニック指導者は、ワクチンに関する判断は示さず、各信徒の判断にゆだねているのが現状です。それでも、ワクチンは「接種するかしないか」で人々を完全に二分するため、教会の一致を脅かします。

一致に向けた祈りの必要性

「ワクチン先進国」であるイスラエルの状況は、もうすぐ日本にもやってくるでしょう。シオンとの架け橋にも、イスラエルのワクチン接種を非難する声が寄せられます。イスラエルのメシアニック・ジューと話す場合も、ワクチン接種を称賛すると、強く反発する人がいるので注意しなければなりません。ワクチンを話題にするのが、非常に難しくなっていると感じます。

LCJEがワクチン接種をめぐる議論に巻き込まれず、「ユダヤ人に福音を伝える」という本来の使命に専念できるように、また、皆様がコロナから守られるようにお祈りします。

メシアの家代表 網本 バフコ

神をはじめ、イエシュア、イスラエルを愛する兄弟と姉妹の皆さん、ペサハおめでとうございます。コロナ禍は続きますが、イエシュアによる贖いと神の救いは絶えません。神のプロジェクトは永遠に勝利を収めるものです。ハレルヤ!!! 神を褒めたたえよ!!! また、コロナウイルスは悪影響を与えるところが、逆に強い信仰へ導いて下さっていることがあり、神の大きな憐みに感謝せずにはられません。

「だから、わたしたちは落胆しません。たとえわたしたちの『外なる人』は衰えていくとしても、わたしたちの『内なる人』は日々新たにされています。わたしたちの一時の軽い艱難は、比喩ものにならないほど重みのある永遠の栄光をもたらしてくれます。わたしたちは見えるものではなく、見えないものに目を注ぎます。見えるものは過ぎ去りますが、見えないものは永遠に存続するからです。」1コリント 4:16 - 18

☆ J ♥ ISL 部屋 ☆

今は春の季節になっておりますが、すでに春のユダヤ祭りについてイスラエル手話を紹介しましたので、今回は秋のユダヤ祭りについて紹介したいと思います。

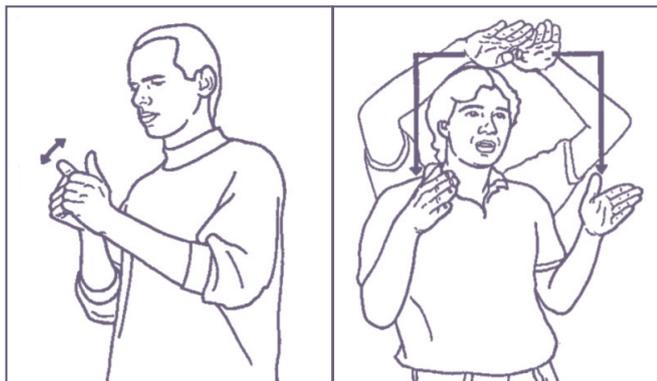


図1 スコット (仮庵祭)
■イスラエル手話 (*外国語手話使用)

図2 スッカ (仮小屋)

私たちメシアの家は、コロナ禍の影響により昨年2月から一般人(ろう者)向けのイスラエルフェスティバルを中止し、新しい生活方式としてピリーバー(メシアの家スタッフ)のみ集まって在宅型のおうち礼拝でイスラエルフェスティバルを行いました。しかし、国から緊急事態宣言が下されたため、速やかに在宅型のオンライン礼拝対応への変更を行いました。それは緊急事態宣言が解除されるまででした。礼拝だけでなく、聖書を学ぶ会やキッズレッスンなどもオンライン対応として新しく加わりました。これまでデフコミュニティの新しい伝道環境を作り出したことを神に感謝しています。

もちろんろう者、聴者を問わずオンライン礼拝に対して違和感を持つピリーバーがいらっしゃるかもしれませんが、しかし、オンライン礼拝そのものは悪ではないということ認識しなければなりません。なぜならこれは文明の利器として呼ばれるものであり、神から摂理的に与えられたものだからです。その道具の用い方自体は善でもなく悪でも

なく、それをいかに用いるか、それをどういう目的のために用いるかということが大事なのです。オンライン礼拝は最先端の技術を神の栄光のために用いている例だということができます。“ろう文化”によるオンライン礼拝は二面性を持ち、長所と欠点があります。

ミニハヌカーパーティー おうち礼拝にて

まず欠点の1つ目は、生きる手話での現場交流ができないこと。2つ目は、命であるデファイ(ろう者の眼)に負担がかかってしまうこと。3つ目は、オンラインによる祈りに慣れにくいこと。しかし、長所はそれ以上に多くあります。それは何でしょうか?

<<<オンライン礼拝の長所(ろう者&聴者)>>>

- ①ユダヤ人伝道ができる。
- ②政府からの要請に対して敬意を表すことができる。
- ③コロナウイルス感染から身を守ることができる。
- ④過去のメッセージをアーカイブに保存できる。

<<<オンライン礼拝の長所(ろう者のみ)>>>

- ⑤マイノリティであるろう者を多く集めることができる。
- ⑥世界共通語のIS(国際サイン)使用で国際礼拝ができる。

神は時間と空間を超越される方ですので、上記の通り、神の計る大きなみわざがあることが分かりますね。さらに、神はオンラインによる祝福を注いでくださいます。なぜなら神の大きな憐みの中で、現在メシアの家はオンラインにより神の救いを得られたピリーバーが増加中だからです。

「イエス(イエシュア)は言われた。『婦人よ。わたしを信じなさい。あなたがたが、この山でもエルサレムでもない所で、父を礼拝する時が来る。あなたがたは知らないものを礼拝しているが、わたしたちは知っているものを礼拝している。救いはユダヤ人から来るからだ。しかし、まことの礼拝をする者たちが、霊と真理をもって父を礼拝する時が来る。今がその時である。なぜなら、父はこのように礼拝する者を求めておられるからだ。神は霊である。だから神を礼拝する者は、霊と真理をもって礼拝しなければならない。』」ヨハネ 4:21 - 24

一番大事なことはいつでもどこで礼拝をするかではなく、どのような心状態で神を礼拝するかです。イエシュアがサマリアの女に語ったように霊と真理によって神を礼拝することが最も重要であります。

さて、メシアの家は4月から新しくスタートするオンラインによるプロジェクトがあります。それについては次回に記載したいと考えております。皆さまもご存知の通り、日常生活で使われる一般手話訳聖書制作の新しい働きに導かれるため、皆さまのお祈りとご支援が不可欠です。どうかお願いいたします。

..... 8P へ続<>

.....◀ 7Pからの続き

「わたしたちはまた、神の協力者としてあなたがたに勧めます。神からいただいた恵みを無駄にはしてはいけません。なぜなら、『恵みの時に、わたしはあなたの願いを聞き入れた。救いの日に、わたしはあなたを助けた』と神は言うておられるからです。今や、恵みの時、今こそ、救いの日。」
2コリント 6:1-2

【メシアの家】 ゆうちよ銀行

記号

10080 番号 87052131 メシアノイエ

店名

〇〇八(ゼロゼロハチ) 店番 008 普通貯金 8705213
(他銀行からのお振込)

Email: info@hom-japan.com

(お振込みいただいた後、ぜひ Email にてお知らせ下さい)

LCJE日本支部事務局レター

LCJE

LCJEは、ユダヤ人伝道団体の情報交換ネットワークです。加盟しているユダヤ人伝道団体それぞれの立場活動を尊重して、機関紙などに情報を掲載しています。しかし特定の立場・教理などを、LCJEとして支持するものではありません。読者におかれましては、個々の見識によって提供される情報を判断していただきますよう、お願いいたします。

【2021年度祈禱会予定】

場 所	6月	7月	8月	9月	会 場
大阪(6:30より)	10日	8日	12日	9日	北浜スクエア(VIP関西センター8F)
東京(1:30より)	12日	10日	14日	11日	御茶ノ水クリスチャンセンター 8F 811号室

【大阪祈禱会にご参加される方へ】 第二木曜日午後6時半開始です。

【東京祈禱会にご参加される方へ】 ご注意ください▶通常祈禱会の会場は、811号室ですが、変更される場合があります。階下の掲示板をご覧ください。

LCJEオンライン祈禱会が試験的にスタート(5・6月の開催予定)

大阪・東京の祈禱会に加えて、オンラインでの祈禱会を試験的に月1回のペースで開催することになりました。

パソコン、タブレット、スマホのいずれでも参加いただけます。参加希望の方は、前日までに naoji@zion-jpn.or.jp (石井田) までメールでお申込み下さい。



5月25日

ボディル・スキヨット師
(元カスパリセンター・スタッフ、
LCJE事務局、ユダヤ人伝道研究者)



6月29日

石黒 イサク師
(LCJE日本支部運営委員、
美濃ミッション代表)

LCJE日本支部 2021年3月度会計

収入・献金			支出・現金			
科	目	金額	科	目	金額	
献	金	66,750	事	務	費	5,800
大阪祈り会席上献金		10,000	NEWSレター製作費		0	
			郵 送 費		0	
			郵便振替手数料		3,250	
			通 信 費		2,800	
			賃 借 ・ 管 理 費		22,000	
			高 熱 費 ・ 共 益 費		9,830	
			交 通 旅 費		5,000	
			祈 り 会 経 費		13,000	
合	計	76,750	合	計	61,680	
			差 引 残 高		15,070	
前月よりの繰越		124,283	次 月 繰 越 金		139,363	

事務局よりのお知らせ

LCJE日本支部では、皆様からの御投稿をお待ちしています。

インターネットでの御投稿、原稿用紙での御投稿いずれも大歓迎いたします。文字数は2000文字前後でお願いいたします。投稿記事は、封書で送っていただくか、**LCJEJAPAN@HOTMAIL.COM** 又は **FAX 072-867-6721** まで。宜しくお願い致します。

編集後記

春号をお手元へお届けできる幸いを主に感謝します。今月号もワクワクするような記事が準備されています。4月にはトゥルーベック師をお迎えして、特別集会を開催できたことは感謝でした。今後も、上からの知恵を慎重に仰ぎつつLCJE日本支部のできることを、主にあってさせていただきたいと願っています。今年も多くのユダヤ人が、主とお会いし救い主を受け入れ、救われます様にお祈りください。心注いでイスラエルの平和を執り成し、お祈りいたしましょう。コ・ワーカーお一人お一人に、主の祝福がありますように。

シャローム
LCJE日本支部事務局長 高瀬真理

LCJE日本支部は、皆様の尊い献金で支えられています。感謝